

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	事業所の専門性を活かして地域との交流や地域住民の理解を得る活動を行っています
	内容	事業所では地域住民の理解を得る活動として、5年前から年1回地域住民を対象に見学会を開催しています。見学会は毎回20名前後の住民が参加し、施設見学や介護相談、食事比較等を行って理解を深める取り組みを行っています。市民センターで行われる手作り作品展では、ただ見学だけでなく、利用者が施設のクラブ活動で作上げた作品を出品し、利用者の生きがいとなっています。利用者が施設に入所しても、住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けるために、職員は地域住民との活動と連携、協力を行うなど、地域との連携に努めています。
2	タイトル	地域の関係機関と連携して他施設相互訪問など積極的な取り組みを行っています
	内容	地区高齢者福祉施設連絡会に施設長が出席しており、この連絡会は19施設が加盟し、当該施設長が連絡会会長になって、2ヶ月に1回事務局会議が行われて情報交換をしています。また福祉厚生面で共同で補助金を出し合い、職員参加施設間ボウリング大会を開催して、親睦を図っています。この連絡会の協働作業の一つとして他施設相互訪問の支援研修を行っています。職員を順次、他施設に派遣及び受け入れによる3日間の実務研修を行い、お互いの支援状況を学び合う作業を行う事で、職員の支援育成手段にしています。
3	タイトル	家族会の協力のもと、利用者の生活の質が向上しています
	内容	家族会は様々な活動を通して施設運営に協力し利用者の快適な生活の手助けをしています。年4回「家族会だより」を発行し施設の近況や要望を家族に伝えています。また、設備の改善、点検、散歩会の実施、各種娯楽を積極的に計画し実践しています。毎年11月には「家族会清掃活動」を実施していると共に、家族会「特別協力金」により車いす等の備品を寄贈し活動予定と結果報告は施設内の「家族会掲示板」で知らせています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	理念に基づく将来を見据えた中長期計画の策定が望まれます
	内容	事業所の中長期計画の策定が望まれます。中期計画を立て、3～5年後にはどのような施設にしたいのか、利用者、業界の動向等を読み取りながら3～5年後の到達目標を掲げ、それに向けてきっちりと年度計画を消化していくことが必要になります。まず、到達目標があり、そこから逆算して今期中はここまでやり切る、という経営に転換することが重要になってくると思われます。経営改革を効果的に進めていくことができるかどうかは、職員の変革意識が大きく関わってくるため、改革の方向性と成果を具現化するための計画が必要になっていると思われる。
2	タイトル	次世代リーダー育成に向けた個別育成計画の策定が望まれます
	内容	今後の経営環境の変化等にスピード感を持って対応していくために、キャリアパスの考え方を取り入れて、次世代リーダーに必要な要件(能力・資質・行動)をはっきりさせ、そのための教育・研修制度を体系化し、将来人事考課と研修制度を有機的に連携させる事で職員のケアレベルが向上し、利用者の満足度向上へと繋げていくことが求められます。経営層の職務権限、特にリーダー層の役割と責任をはっきりとさせて、現リーダーポジションの次期リーダーとなる人材を育成していく必要があると思われます。
3	タイトル	さらなる期待として居心地の良い空間作りに期待します
	内容	当施設は定員180名と大規模な施設ですが、利用者が施設での生活に満足し、我が家のように寛いで暮らして欲しいと考えています。利用者が楽しめるように、様々な行事やクラブ活動に取り組んでいますが、一人で何もしない時間でも、ほっと寛げる空間作りを目指しています。今後は、外出の機会の少ない利用者が、季節を感じられる工夫をし心が和んだり、落ち着いたりできる、居心地の良い空間作りに期待します。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	施設利用者の自立支援を実践しつつ、新たな地域の生活困難者支援に努めている
	内容	高齢化と身体・精神・知的各障害が複層的に重度化する利用者が施設から地域生活に移行するのが難しい状況にあるが、個別支援計画に基づいて自立ができる支援に取り組んでいる。地域の保護受給者に対しては、継続した日常生活を支える通所・訪問事業や一時入所事業のほか、新たに矯正施設退所者を受け入れ、さらに地域へ積極的な情報提供、問い合わせや相談等に柔軟に対応しながら困難者支援に前向きに取り組むなど、積極的に地域に開かれた施設を目指そうとしている。
2	タイトル	利用者自身が施設生活について直接発言できる場を多く設けるなど、利用者主体への取り組みを積極的に行なっている
	内容	利用者が施設生活について直接意見を述べるができるよう利用者代表が事業計画会議に参加したり、利用者全員が年に1回給食ミーティングに参加して食事に関する意見を言う機会が用意されている。また、月に1度行なわれる全員参加の「話し合い広場」や各フロアごとに毎週行なわれる「フロアミーティング」など、利用者が参加する話し合いの場が用意され、全体のことやフロアごとの課題や意見を出しやすい仕組みがあるなど、利用者主体への取り組みが積極的に行なわれている。
3	タイトル	自立支援を基本とした個別支援計画への取り組みが組織的に行なわれている
	内容	利用者の高齢化を見据えながらの「自立支援」に取り組んでおり、地域生活移行支援・日常生活自立支援・社会生活自立支援を利用者の心身の状態やニーズに合わせてサービスを提供することを支援の基本としている。施設ではそれらの実践に向けた個別支援計画の作成に力を入れており、入念なアセスメントの実施や評価のためのケース会議で活発な議論が行なわれている。利用者の自立支援に向けて職員全体で共通の意識をもち、個別支援計画への組織的な取り組みが行なわれている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の能力向上のために、より計画的な取り組みが望まれる
	内容	利用者の気持ちを引き出し、その尊厳を守って支援を行なうことなど、施設が職員に求める資質向上や能力習得への期待は大きい。だが、職員アンケートからみると、施設の姿勢に対しての職員の受け取りは、他の質問項目での高い評価結果に比べるとやや否定的な結果になっている。経営層は単に職員の研修受講を奨励するだけでなく、職員個々の希望を尊重しながら施設として職員一人ひとり個別的に期待する研修目標を明示しつつ育成計画を共に作るとともに、受講後は成果を目標に照らして確認するなどの仕組みの構築が望まれる。
2	タイトル	個別支援計画について利用者の意識を高めていくことが課題である
	内容	個別支援計画については念入りなアセスメントと評価のためのケース会議が通年で開かれ、自立支援という基本的な考えのもとで利用者サービスの重点事項と毎年度位置づけて取り組んでいる。このことは職員アンケートでも事業所の「特に良いと思う点」及び「力を入れている取り組み」への多数の意見からうかがうことができる。しかしながら、利用者アンケートや面接では個別支援計画についての認識の低さが結果として表れている。施設がめざす支援とそれに向けた個別支援計画への利用者の認識を高める工夫が課題となっている。
3	タイトル	各種クラブ活動を実施する等積極的支援が行なわれているが、参加者の片寄りも見られることから、新たなニーズを探る事も必要と思われる
	内容	施設生活を有意義に充実したものにするために12種のクラブ活動が行なわれており、利用者個々の能力を引き出し、自主性を促すことを目標に取り組まれている。また、情緒安定や身体、精神的な低下の予防も目的とし、ボランティアも参加するため地域交流の場ともなっている。しかしながら、参加者の片寄りや参加しない利用者も見られるなど改善点も見受けられる。利用者の高齢化も影響していると思われるが、新たなニーズを探っていくことも必要と思われる。

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	困難なケースでも利用者の希望を尊重し、利用者の段階に合った自立の目標を個別支援計画で設定しています
	内容	1名の利用者が昨年度に在宅復帰を果たしたことが他の利用者や職員へ良い影響を与え、地域移行は特別なことではないという意識が施設で強まっています。昨年度は、訓練の対象者を広げるため、居宅生活訓練用のアパートの部屋を1階に変更し、施設の女性フロアの生活訓練室を整備する環境改善を行いました。職員は、利用者の自立がたとえ困難なケースであっても利用者の自立希望を尊重し、居宅生活訓練や施設内での自立等、利用者の段階に合った自立の目標を個別支援計画で設定して支援をしています。
2	タイトル	利用者と直接対話をしながら意見を聴取する機会を多く設定し、利用者主体のサービス提供に取り組んでいます
	内容	利用者として直接対話をしながら意見を聴取し、施設での生活場面に反映できるよう取り組んでいます。直接意見交換する機会として、定例会、フロアミーティング、給食ミーティング、給食懇談会、作業懇談会が設定されています。また、施設の事業計画策定時においても、利用者の代表がメンバーとして事業計画会議に参加し、利用者の意見を吸い上げています。利用者が様々な会議に参画することで、利用者も自然と施設の取り組みを知る機会にもつながっていると推察されます。利用者主体のサービス・意思の尊重という基本方針を実践しています。
3	タイトル	事例を用いて実践的な検証等にてリスク管理を行い、施設が安全な生活の場であるよう取り組んでいます
	内容	当施設では危険予知訓練を年3回、事故の根本原因の分析を年2回行っています。施設で実際にあがった事故報告書の中から事例を決定し、事例を基に検証を行っています。危険予知訓練については、昨年度までは訓練で使用される事例集で行っていましたが、今年度は施設内を写真に収め、その場所を使ってより実践的な訓練が行われています。また、防災訓練を兼ねた炊き出し訓練も実際の災害を想定して行い、シナリオを作らず、実際の動きを利用者と共に確認しました。生活における利用者の安全確保に実践的な方法で取り組んでいます。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	「循環型施設」として機能するために、地域との連携の進展が期待されます
	内容	事業所では生活保護や救護施設のあり方をめぐる世論を踏まえて、「循環型施設」という方向性を打ち出して、地域で暮らす生活困窮者へのアウトリーチ的支援や、入居者の地域移行支援といった専門的な支援体系の確立を目指しています。取り組みを実践する中で、事業所としては地域移行後の利用者支援等における福祉事務所等関連機関との連携強化が課題と認識しています。そのための働きかけをより一層進めるとともに、関係機関の理解を深める啓発的な情報発信等を行うことが期待されます。
2	タイトル	職員一人一人が主体性を高め、組織力の向上を実現することに期待します
	内容	事業所では、常勤職員・非常勤職員ともに会議等で意見を述べる機会が設けられています。参加する職員からは施設運営や支援の実践内容等に関する意見が出るようになってきていますが、支援の実践を通じて利用者に向き合うなかで得たニーズを具体化する支援プログラムや企画について、より活発な提案が行われることが期待されます。職員一人一人が主体的に考え、行動することにより組織力を向上させて、支援の質の向上につなげていくことを期待します。
3	タイトル	施設、利用者、家族との結びつきの継続性など、施設が検討課題と捉えている事項について計画的に取り組むことが期待されます
	内容	施設と家族のやり取りについては、個別支援計画策定時に利用者本人から確認し、意向に沿う形で対応しています。近年、利用者の高齢化に伴い、家族の高齢化も進み、また、利用者の入所に至る経過や障害特性などにより家族との関係性への配慮が必要である場合や家族との結びつきも薄くなってきている傾向があると施設は認識しています。今後、施設検討課題として捉えている家族以外の方々との関係性を構築などは、関係機関も巻き込みながら、計画的に進めていくことが期待されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	支援体系の再構築が落ち着き、安定した事業所運営が達成できています
	内容	事業所では平成19年4月に新体系への移行・身障授産施設から障害者支援施設への変更を行い、続けて平成21年10月に施設入所支援事業の終了・通所型事業所への変更という、大掛かりな支援体系の再構築を実施しました。地域で生活している、就労を希望する多様な障害者の受け入れ先となるべく、支援内容や設備の見直し等を行ってきました。こうした過程を経る中でも、健全経営の達成、高いレベルでの作業工賃実績、着実な就労実績等の成果を上げており、職員の力を結集して、中期的な計画に基づく安定的な事業所運営を達成させています。
2	タイトル	「充実した就労の提供」を目標に、作業面、健康面での環境を整えていることは利用者の働くことへの意欲向上につながっています
	内容	「充実した就労の提供」を目標に、目標工賃達成指導員の配置やフォークリフトやベルトコンベア等の設備投資を行いながら、積極的に取り組んでいます。大手企業の下請け作業の受託や、DMの封入など、これら作業工程は細分化されており、利用者の障害特性、適性を判断しながら、利用者が主体性を持って取り組めるよう提供しています。安定した受託作業の確保が継続できていること、さらに看護師の配置により健康面、メンタル面でのサポートが来ていることは安心感を与え、利用者の働くことへの意欲向上にもつながっていると推察されます。
3	タイトル	利用者が様々な活動を通して地域の様子を実際に感じながら活用できるよう取り組んでいます
	内容	地域で生活する上で必要と思われる情報を活用できるよう利用者への発信に取り組んでいます。あらゆる面での「自立」につながるよう、地域内での情報は本人が活用できるよう「対話の集い」等で伝えています。また、利用者は市内での職場実習や東京都のチャレンジ雇用などの活用や、その他、関係機関の各種セミナーや相談会、見学会、地域でのレクリエーション(余暇活動)等を通して、地域の様子を感じながら社会参加の機会を得ています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の潜在的な意見を吸い上げ、利用者同士の関係構築を促す取り組みが期待されます
	内容	利用者の意見や要望を把握するための取り組みとして、「対話の集い」という情報交換の場の設置や、ご意見箱の設置等を行っていますが、全ての利用者が積極的に発言している状況とはなっていないようです。また、多様な障害特性や背景を持つ新規利用者も増えていることから、利用者同士の良好な関係構築も課題となっています。従来以上に、職員が利用者と個別に関わる中で意見や要望を汲み取ったり、利用者同士の懇談の機会をコーディネートして、お互いのことを良く知った上で関係構築するように促していくことが期待されます。
2	タイトル	記録の連動性や重要性について職員間で共通認識をもち、日々の記録内容と定期的なアセスメントの見直しを行うことが望まれます
	内容	利用者の日々の記録は所長が各記録の中から整理して個々のケース記録を作成しています。日々の記録は個別支援計画を作成するための重要な材料であると同時に、利用者の状況変化等を把握するうえでも重要となります。また、アセスメントについても利用者の高齢化や障害特性の多様化を考えると、定期的な見直しは必要です。今一度、記録やアセスメント、個別支援計画の重要性や連動性について職員間で共通認識を持ち取り組めるよう検討することが期待されます。
3	タイトル	職員間においても、お互いを尊重しながらも建設的な意見を言い合える環境を創り、チーム力を発揮できる関係性の構築が期待されます
	内容	非常勤職員を含む全職員に配布している「利用者の人権擁護に関するガイドライン」には、「職員倫理行動綱領」や「利用者接遇の心構え」が記されており、職員としてのあるべき姿を職員に示しています。その他、事業所独自で作成した接遇の心構え、自己チェックリストが作成され、組織的に権利擁護について取り組む仕組みは構築されています。今後は、利用者の権利擁護に対する支援を深めることと共に、職員間においてもお互いを尊重し合いながらも建設的な意見を言い合える環境を創り、チーム力を発揮できる更なる関係性の構築が期待されます。